

令和7年11月27日

福井県 保健予防課

担当者： 野村、大久保

電話： 0776-20-0351

メール： hoken-yobo@pref.fukui.lg.jp

インフルエンザ警報を発令します！

インフルエンザの発生動向については、令和7年11月19日に「インフルエンザ注意報」を発令しているところですが、県内のインフルエンザ定点医療機関（39医療機関）の令和7年第47週（令和7年11月17日～令和7年11月23日）における1定点あたりのインフルエンザ患者数は43.79人となり、警報の基準値である1定点あたり30.00人を上回りましたので、「インフルエンザ注意報」を本日付けで「インフルエンザ警報」に切り替えます。

また、今後も県内全域において流行が拡大する可能性があるため、各自で予防対策を徹底する必要があり、急激な発熱、咳、咽頭痛、関節痛など、インフルエンザの症状がみられた場合には、医療機関への早期受診が大切です。

つきましては、別添の対策等について、広く県民に周知していただきますよう、よろしくお願いします。

【定点あたりの報告数】

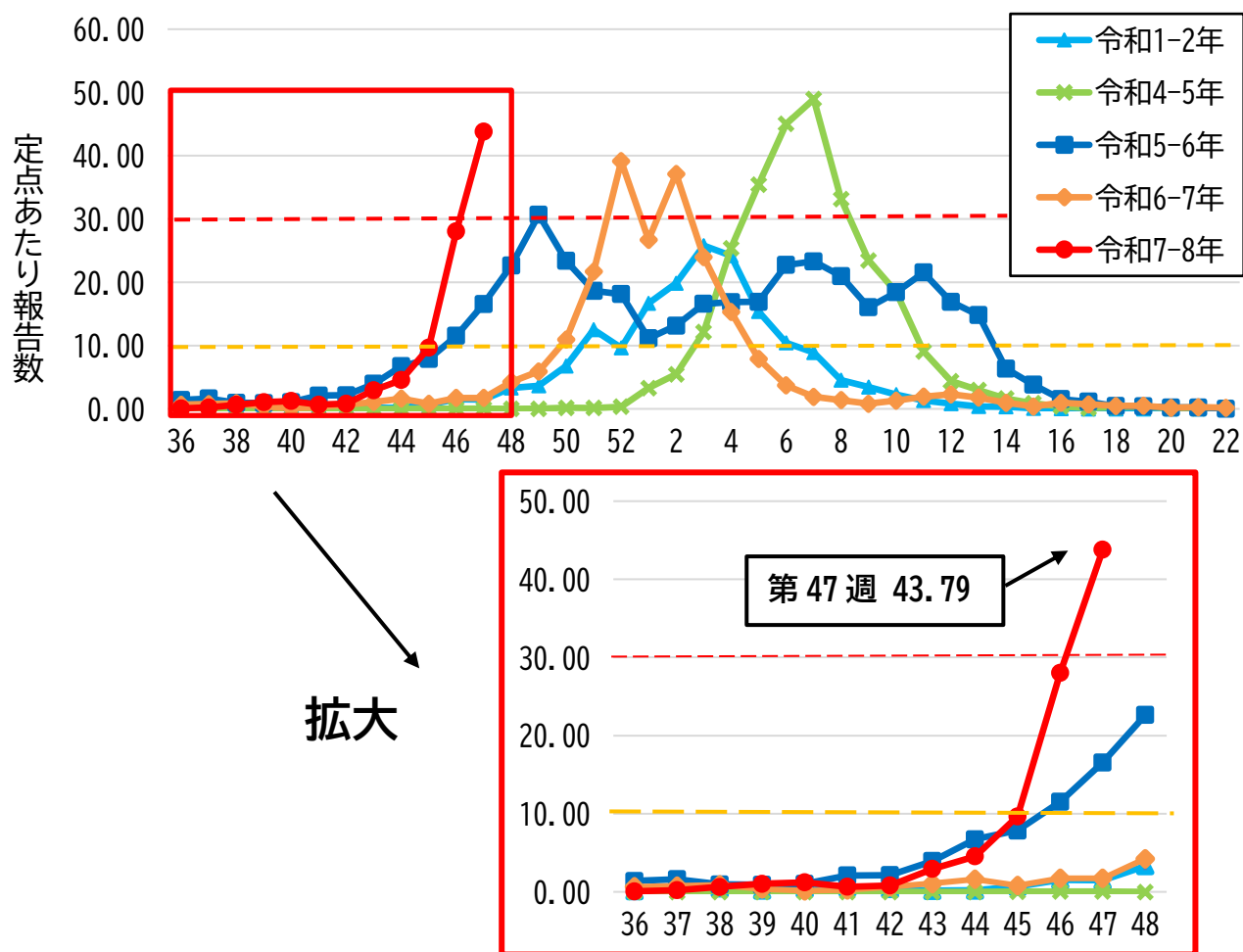
・全県：43.79人／定点

【保健所単位の地域別定点あたり報告数】

・福井市：41.25人／定点
・福井：8.50人／定点
・坂井：47.40人／定点
・奥越：19.75人／定点
・丹南：69.13人／定点
・二州：44.00人／定点
・若狭：35.67人／定点

インフルエンザ警報を発令しました！

福井県におけるインフルエンザ発生状況



インフルエンザに関する情報について

- 「福井県インフルエンザ関連情報」(福井県ホームページ)

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kenkou/kansensyo-yobousessyu/influenza2.html>



- 「福井県感染症情報」(福井県感染症情報センター)

<https://info.pref.fukui.lg.jp/kansensyou/>



- 「インフルエンザ(総合ページ)」(厚生労働省ホームページ)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuenza/index.html



- 「インフルエンザ」(国立健康危機管理研究機構ホームページ)

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/a/influenza/index.html>



インフルエンザについて

- ・インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起きる病気です。
- ・38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴です。併せて、普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻水、咳等の症状も見られます。
- ・小児ではまれに急性脳炎を、高齢者や免疫力の低下している方では、細菌による肺炎を伴う等、重症になることがあります。
- ・季節性インフルエンザは流行性があり、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が広がります。日本では、**例年 12～3 月が流行シーズン**です。

インフルエンザにかからないために

インフルエンザを予防する有効な方法としては、以下が挙げられます。

①外出後の手洗い等

外出後は、**流水と石けんによる手洗い**をしましょう。

②適度な湿度の保持

室内では、加湿器などを使って**適切な湿度**（50～60％）を保ちましょう。

③十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を心がけましょう。

④人混みへの外出を控える

高齢者や基礎疾患のある方、妊婦など重症化リスクの高い方は、人混みへの外出を控えましょう。また、やむを得ず外出して人混みに入る可能性がある場合は、不織布製マスクを着用することも有効です。

⑤室内でのこまめな換気

季節を問わず、**十分な換気**が重要です。

⑥流行前のワクチン接種

早めに医療機関と相談の上、ワクチン接種をご検討ください。

インフルエンザにかかったかもしれないときは・・・

- ・人混みへの外出を避け、無理をして学校や職場に行かないようにしましょう。
- ・咳やくしゃみ等の症状がある時は、家族や周りの方々にうつさないように、「**咳エチケット**」を**徹底**しましょう。
- (※)「**咳エチケット**」
 - ✓ 咳やくしゃみを他の人に向けて発しない。
 - ✓ 咳やくしゃみが出ているときは、できるだけ不織布製マスクを着用する。
とっさの咳やくしゃみの際にマスクがない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を覆い、顔を他の人に向けない。
 - ✓ 鼻水・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受けたときはすぐに手を洗う。
- ・安静にして、休養をとりましょう。特に、睡眠を十分にとることが大切です。
- ・水分を十分に補給しましょう。お茶でもスープでも飲みたいもので結構です。
- ・高熱が続く、呼吸が苦しい、意識状態がおかしい場合などは、**早めに医療機関を受診**しましょう。
- ・「受診の目安」や「症状への対応」などの相談は、こどもの救急医療電話相談「#8000」やおとなの救急医療電話相談「#7119」でも行っています。